授業科目	生物学			担当教員	真木　正英
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	元公立高校教員、平成28年度から前期（4月～7月）の授業を担当してきた。非常勤講師。				

授　業　目　標

歯科衛生士のライセンス取得のための全科目の基礎としての「生物学」という立場から、生物（脊椎動物を中心に）の体のつくり、活動の基本的メカニズムを理解する。
教科書内容のうち、「生物体の成り立ち」「生物体の働き」「生命の連続性」の章を重点的に学習する

成　績　評　価　の　方　法

主評価内容：定期試験の成績（70～80％）
従評価内容：①講義時の発問に対する解答内容・態度　②講義内容に対する興味・関心・意欲
③小テスト（各章終了時）　①～③で20～30％

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本 「生物学」 全国歯科衛生士教育協議会　監修　医歯薬出版株式会社

履　修　上　の　注　意

高校カリキュラムの「生物基礎」で終っている学生と、さらに「生物」まで履修している学生とでは基礎学力では相当の開きがある。講義内容は、前者にピントを合わせて生命現象の理解を深める。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要	
1	生命、組織と細胞	1. 生命とは何か、生命の誕生と変遷 2. 細胞の構造と活動
2	組織と細胞	1. 酵素、ATP 2. 組織と器官
3	生命の連続	1. 生命と遺伝、遺伝子 2. 発生の過程としくみ
4	環境と生物	1. 刺激と反応 2. 神経とホルモン
5		
6		
7		
8		
9		
10		

授業科目	化学			担当教員	町田　實
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	38年間県立高校に勤務。理科（物理、化学）を担当。				

授　業　目　標

歯科衛生士として将来関わるであろう薬剤・治療の理解が深まるよう、化学的分野の基礎知識を系統的に学習する。単に知識の丸暗記ではなく、「何故、どうして」を考えさせ、化学の命題である物質とは何かに少しでも迫りたい。高校で履修していない生徒にも配慮して展開する。

成　績　評　価　の　方　法

定期試験と小テストを下記の割合で評価する。
定期テスト70％～50％、小テスト30％～50％

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本　化学　　全国歯科衛生士教育協議会監修

履　修　上　の　注　意

講義は教科書をベースにした独自のプリントを使用する。教科書の全内容を時間内で終わらせるのは困難であるので、割愛する部分もある。学生は教科書をよく読んで欲しい。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	**1章　物質とは何だろう。** ①物質の分類　（身近な物質を分類する。混合物から純物質への分離方法）
2	②物質の構造　（原子の構造と表し方　原子の大きさ　原子核内の陽子・中性子） ③原子の電子配置　（電子殻の軌道の関係）
3	④元素の周期律　（メンデレーエフの考えをたどりながら、周期律の概念を学ぶ）
4	⑤物質量　（原子量・分子量の考え方、日常への応用）
5	⑥化学結合　（イオン結合・共有結合・金属結合）
6	⑥化学結合　（配位結合・分子間に働く力　水分子の特異性）
7	**2章　気体について知ろう。** ①空気は何から　②気体の性質　③気体を使う（医療・生活への応用）
8	**3章　物質が水に溶けるとは** ①水溶液の濃度の表し方（％　モル／ℓ　ppmなど）
9	④酸とアルカリの水溶液（酸・アルカリとは何か、その強弱の意味）
10	④酸とアルカリの水溶液（水素イオン濃度とpHの関係、身近な物質のpH）
11	**6章　有機化合物とは何だろう。** 炭化水素（アルカン・アルケン・アルキンの構造、反応と性質）
12	酸素を含む化合物（アルコール類・エーテル・アルデヒド・有機酸） 芳香族化合物
13	**7章　ヒトを作っているものは何だろう。** ①水はいたる所に存在する。　②ヒトを形づくる元素　③糖質
14	④アミノ酸とタンパク質　⑤脂質
15	⑥核酸と核酸関連物質

授業科目	心理学			担当教員	柳　智盛
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	・九州大学大学院人間環境学府付属総合臨床心理センター研究員　子ども発達相談部門主任 ・立命館アジア太平洋大学/長崎国際大学　非常勤カウンセラー				

授業目標

「心理学」の講義では、一般に「心」と呼ばれるものの様々な働きである心的過程とそれに基づく行動を探求していく。その際に、「人間理解」をひとつのキーワードとして、人間の様々な側面についての概論や心理学的な研究の諸成果について学ぶことを通して、自己理解を深めることや歯科衛生士になるために必要なコミュニケーションスキルを習得することも大きな目標の一つとする。

成 績 評 価 の 方 法

定期試験の成績を70％とし筆記試験を行う。毎回の授業終了時の感想シートの内容を評価する。授業態度・授業への参加度は授業中の受講態度等を評価する。
・定期試験は、選択形式と記述形式で問う。選択形式では、心理学に関する基本的な概念についての理解を評価する。特に心理学の様々なトピックについての理解がどの程度できているかを評価する。記述形式では、設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べることができるかを評価する。

教科書と参考文献

最新　歯科衛生士教本　心理学　　医歯薬出版株式会社

履修上の注意

特になし

No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要
1	心理学とは何か。
2	人間理解に関わる代表的な心理学モデルについて理解する。
3	コミュニケーションとは何か、要素、スキルについて理解する。
4	視覚や聴覚などの感覚とその内的過程である知覚の心理学的メカニズムについて理解する。
5	条件づけに代表される学習理論や、言語の獲得、記憶と忘却等の心理学的メカニズムについて理解する。
6	欲求と行動、動機づけと行動、感情と情動等の心理学的メカニズムやプロセスについて理解する。
7	パーソナリティ（人格）や性格についての理解の仕方と形成、その測定方法について理解する。
8	知能についての考え方とさまざまなIQの概念についての歴史と定義、また創造性について理解する。
9	発達①　基本的発達観と発達諸理論について理解する。
10	発達②　基本的発達観と発達諸理論について理解する。
11	ストレスと適応について学び、ストレスの処理におけるストレスマネジメントについて理解する。
12	臨床心理学の理論と実際、カウンセリングの諸理論について理解する。
13	精神分析や行動療法など種々の心理療法の実際について理解する。
14	社会的態度の発達や個人と集団の関係などについて理解する。
15	まとめとして、本授業全体について総括し、未学習な部分を補完する。

授業科目	社 会 学			担当教員	山 口　清 隆
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	高校（教頭）と大学（講師）で社会科（日本史、世界史、地理、倫社）授業担当				

授 業 目 標

激変する21世紀の国際社会において人間関係を考察する社会学は益々必要度を増している。
今の時代に必要な日本人としての文化原理を特に西洋文明へ発信していかなければ日本人としての
アイデンティティーは喪失してしまう。日本人の歴史や文化を通して国際社会との関わり方を社会学
的に分析し、これから日本はどう関わっていくべきかどうかを考えさせていく。

成 績 評 価 の 方 法

定期テスト80％・講義後の感想文10％・授業態度10％で行なう。

教科書と参考文献

教科書　：　「日本人はなぜ日本を愛せないのか」　鈴木孝夫著　新潮選書
参考文献：　「社会学がわかる事典」　森下伸也著　日本実業出版社
　　「社会学をいかに学ぶか」　船橋晴俊著　弘文堂

履 修 上 の 注 意

最初に授業の進め方と社会学で日本人分析を行う事由や評価方法について説明を行う。

No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要
1	**素晴らしいものは海の向こうからやって来る** 「蜃気楼効果」 による外国礼賛の心理
2	**外国の醜い所が全く見えない** 世界に例のない日本人の「バスト型外国観」
3	**魚介か家畜か** 動物性食料源の違いに由来する世界観の相違
4	**外国は「話せばわかるのか？」** 征服されたことのない日本人の「不沈戦鑑幻想」
5	**部品交換型文明の光と影** 日本語を棄てたがる日本人
6	**日本人の自信回復のために** 歴史を知るということ
7	**「地球原理」と日本の生き残り戦略** 日本の進むべき道はここにある
8	
9	
10	

授業科目	文学Ⅰ			担当教員	辻尾　修
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	1学年前期　15時間
経歴・役職	元公立高校教員				

授　業　目　標

「国語力」とは、読む・書く・聞く・話す力を総合した「ことばの力」であることを認識し、医療現場のみならず実社会において求められる国語力を身につける。

成　績　評　価　の　方　法

定期試験を8割、出席状況・課題の提出・授業態度等を2割とし、総合的に評価する。

教科書と参考文献

各種資料・参考書・問題集等を参考にし、プリントを準備する。

履　修　上　の　注　意

特になし。

No.	授業題目・授業概要
1	1 「国語力」とは ※自分を語る（自己紹介）　※文学Ⅰの授業等に関するアンケート
2	2 漢字（1） 読み・書き取りなど （書き取りのおさえどころ、同音異義の漢字・専門語の書き取り）
3	3 漢字（2） 同音異義語・同訓異義語・四字熟語など ※レポートの書き方（「レポートの特徴と作成のポイント」）
4	4 表現（1） 語句の意味・ことわざ・故事成語・慣用句など
5	5 表現（2） 同義語・類義語・対義語など 待遇表現（尊敬・謙譲・丁寧・美化）・正しい言葉遣いなど ※歯にまつわる慣用句・ことわざ
6	6 表現（3） 文章表現（文体の統一・文章表現の要点と工夫・推敲・小論文演習など） ※小論文（与えられたテーマで自分の思いを800字でまとめる）
7	7 表現（4）スピーチをする 現在、自分が最も関心を持っているテーマで2分間スピーチをする。
8	8 試験

授業科目	英語　I			担当教員	Caroline Kim
				実務経験	無
授業形態	演習	単位数	1単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	英会話スクール講師・進学塾英語講師				

授　業　目　標 (Course Objectives)

・様々な場面や状況の会話に触れ、リスニングやスピーキングの実践的な練習を取り入れることによって、
　基礎的な単語や構文が身につくようにする。
・歯科関係の基本的な英単語やフレーズを習得する。

成　績　評　価　の　方　法 (Grading)

定期試験80%・ 課題 & クイズ 10% ・授業態度10%の総合評価

教科書 (Textbook)

・歯科英語の練習帳English for Dental Hygienists (萌文書林)

履修上の注意

毎回覚える重要単語があるので、書き足すためのシート(ルーズリーフ等)を用意する
教科書、英語辞典、プリント、プリントホルダーをいつも用意する
学習者の学習ペースに合わせて授業計画を変更する場合もある

No.	授業題目・授業概要	
1	Orientation & Self-Introduction Structure and types of teeth	オリエンテーション、自己紹介 歯の構造・名称
2	Unit 1. Appointment	電話の予約
3	Unit 2. At the Reception Desk (1)	受付にて：来院の目的と既往症
4	Unit 3. Before the Treatment (1)	治療前の指示
5	Unit 4. At the Reception Desk (2)	受付にて：治療後
6	Unit 5. Before the Treatment (2)	治療の経過
7	Unit 6. Taking an X-ray	レントゲンの撮影
8	Review Unit 1 - Unit 6	まとめ
9	Unit 7. Dental Care	歯の手入れ
10	Unit 8. How to Brush Your Teeth	正しい歯磨き
11	Unit 9. Smoking and Eating Habits	喫煙と食生活
12	Unit 10. How to Prevent Gum Disease	歯周病対策
13	Unit 11. Dental Health of Inftants	乳幼児の虫歯予防
14	Unit 12. Health Activities	歯の健康のための活動
15	Unit 13. At an adult Daycare Center	デイケアセンターにて

授業科目	解剖学			担当教員	真鍋　義孝・六反田　篤
				実務経験	有　(無)
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	真鍋　義孝　　長崎大学　生命医科学域　顎顔面解剖学分野　教授 六反田　篤　　長崎大学　生命医科学域　顎顔面解剖学分野　名誉教授				

授　業　目　標

人体の正常な形態と構造を把握する。
解剖学総論、および全身における各器官系の総論・各論について理解する。

成　績　評　価　の　方　法

前期末と後期末に筆記試験を行う。
筆記試験90パーセント、受講態度10パーセントで総合的に評価を行う。

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本　解剖学・組織発生学・生理学　　医歯薬出版
必要に応じて、講義用資料を配付する。
骨格・筋・内臓の立体的構造を把握するため、模型を用いる。

履　修　上　の　注　意

全身の形態と構造について暗記するに留まらず、理解したうえで知識を身につけていくこと。
講義終了後に行う解剖体見学実習を通して、知識の習得ばかりでなく、生命の尊厳についても理解を深める。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	解剖学総論、骨格系（総論・頭蓋・脊柱・胸郭・上肢骨・下肢骨） （6時間）
2	筋系（総論・頭部・頸部・背部・胸部・腹部・上肢の筋・下肢の筋） 内臓学1（総論・消化器系） （6時間）
3	内臓学2（呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌腺） （6時間）
4	脈管系（総論・心臓・動脈系・静脈系・リンパ系） 神経系1（中枢神経系） （6時間）
5	神経系2（末梢神経系） 感覚器系（視覚器・平衡聴覚器・味覚器・嗅覚器・外皮） （6時間）
6	
7	
8	
9	
10	

授業科目	組織発生学			担当教員	相田　美和
				実務経験	無
経歴・役職	福岡大学医学部助手、新潟大学歯学部助教、日本歯科大学新潟生命歯学部非常勤講師 現役職：長崎国際大学薬学部講師				
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	1学年後期

授　業　目　標

医療の道を志す者にとって、人体の構造と機能を知ることは不可欠である。生体の構造を顕微鏡レベルで見る組織学はその器官で何が起こっているのかを知る大事な情報を提供してくれる。
口腔組織を中心に全身の組織構造を学んでもらいたい。また、発生学は、1個の受精卵が60兆個もの細胞を持つ人体に構成されていくことの神秘と整然性を理解してほしい。

成　績　評　価　の　方　法

筆記試験（中間及び定期）と演習への取り組みによって評価する。評価割合は、中間試験40％、定期試験50％演習10％とする。

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本　組織発生学・口腔組織発生学　医歯薬出版
適宜、講義用プリントを配布する。

履　修　上　の　注　意

解剖学をよく復習しておくこと。緊張しないで適度にリラックスし、柔軟性を持った頭で講義に臨んでもらいたい。

No.	授業題目・授業概要	
1	総論	組織学では何を学ぶか？　細胞についての復習。基本組織について。歯の構造の概要。
2	基本組織	上皮組織、支持組織、神経組織、筋組織。
3	軟骨・骨・脈管	軟骨組織の構造。骨の形成。動脈、静脈、リンパ管。
4	皮膚・粘膜	表皮・真皮・皮下組織の構造。粘膜の組織構造。
5	初期発生	受精と着床。外胚葉・中胚葉・内胚葉の三胚葉の形成。鰓弓について。
6	顔面・口腔	顔面の形成。口蓋の形成。
7	歯の発生	歯胚の形成。歯胚の分化。歯根の形成。
8	口腔組織各論	エナメル質。象牙質。歯髄。　歯周組織。口腔粘膜。唾液腺と舌。
	No．1～6を前期に、No．7、8を後期に行う予定。 また、前期終了時に1回中間試験を行う。	

授業科目	口腔解剖学・歯牙解剖学			担当教員	真鍋　義孝・六反田　篤
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	3単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	真鍋　義孝　　長崎大学　生命医科学域　顎顔面解剖学分野　教授 六反田　篤　　長崎大学　生命医科学域　顎顔面解剖学分野　名誉教授				

授　業　目　標

口腔領域、および口腔周辺の諸器官の正常な形態と構造を把握する。
口腔領域の各器官系の総論・各論について理解する。
歯の形態学的特徴を理解する。

成　績　評　価　の　方　法

前期末と後期末に筆記試験を行う。
筆記試験90パーセント、受講態度10パーセントで総合的に評価を行う。

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本　口腔解剖学　　医歯薬出版
必要に応じて、講義用資料を配付する。
歯牙模型を用いて、立体構造の把握を促進する。

履　修　上　の　注　意

他の基礎科目や臨床科目の理解を深めるため、口腔領域についての高度な解剖学的知識を身につけておくこと。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	口腔領域の構造（口腔・口唇と頬・口腔前庭・固有口腔・口峡・舌・唾液腺・咽頭） 口腔領域の基礎をつくる骨（下顎骨・舌骨・上顎骨・口蓋骨・翼口蓋窩） （6時間）
2	頭蓋と顎関節 口腔領域の筋（表情筋・広頸筋・舌骨上筋・舌骨下筋・咀嚼筋） （6時間）
3	口腔領域の動脈と静脈 頭頸部のリンパ系 （6時間）
4	口腔領域とその付近に分布する神経（脳神経・脊髄神経・自律神経） （6時間）
5	歯の解剖学総論（歯の定義・種類と記号・歯式・方向用語・歯の形態・歯と歯周組織・歯の機能） （6時間）
6	永久歯の形態1（切歯・犬歯） （6時間）
7	永久歯の形態2（小臼歯・大臼歯） （6時間）
8	乳歯（形態的特徴・乳切歯・乳犬歯・乳臼歯） 歯の配列と咬合（配列・植立・咬合）、歯の異常（歯数の異常・形態の異常） （6時間）
9	
10	

授業科目	歯型彫刻			担当教員	山口　眞一郎・前川　亮介・伊川　英利 井手　雅典・宮原　浩
				実務経験	有
授業形態	実習	単位数	1単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	・山口　眞一郎（ホリスティックデンタルブレーン）・前川　亮介（ファインアート） ・伊川　英利（エリークラフト）・井手　雅典（I.D.Labo）・宮原　浩（ヒロ・デンタルアート）				

授　業　目　標
石膏棒を彫刻し、歯牙の模型を製作することにより、歯の形態を理解し、物体の立体的な捉え方を習得すると共にそれを形にして表現する手技を学習する。
成　績　評　価　の　方　法
作成した個々の模型を解剖学的観点から評価すると共に毎回の模型を確実に提出したことによる総合的なものを評価に加える。
教科書と参考文献
最新歯科衛生士教本　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学　医歯薬出版
履　修　上　の　注　意
解剖学的形態は「口腔解剖学」で学習し、習得していることを前提としている。

No.	授業題目・授業概要
1	右上　①　の彫刻　:各ステップの学習。ステップに基づいた　右上　①　の彫刻
2	右上　③　の彫刻　:各ステップの学習。ステップに基づいた　右上　③　の彫刻
3	右上　⑤　の彫刻　:各ステップの学習。ステップに基づいた　右上　⑤　の彫刻
4	右上　⑥　の彫刻　:各ステップの学習。ステップに基づいた　右上　⑥　の彫刻
5	右下　⑤　の彫刻　:各ステップの学習。ステップに基づいた　右下　⑤　の彫刻
6	右下　⑥　の彫刻　:各ステップの学習。ステップに基づいた　右下　⑥　の彫刻
7	テスト　　:　各自、模型を観察し、指示された歯牙を時間内に彫刻する
8	
9	
10	

授業科目	生理学			担当教員	高崎　伸也
				実務経験	無
経歴・役職	崇城大学薬学部・助手→九州大学大学院医学研究院・助教→九州大学病院検査部・助教→長崎国際大学薬学部・講師				
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期

授　業　目　標

人体は合目的的に精巧に作られています。その様子をしっかりと理解するためには生理学を勉強するのがとてもよいことです。歯科口腔領域のみならず、人体諸機関の生理学的機構や作用について知ってください。講義中、受講生に対してたびたび質問を行うので、興味を持ち積極的に回答してください。

成　績　評　価　の　方　法

学院で定められた試験を実施し評価する(80%)。また、受講態度および講義中の質問に対する回答も評価の対象とする(20%)。

教科書と参考文献

歯科衛生士教本　人体の構造と機能1
歯科衛生士教本　歯・口腔の構造と機能
プリントを毎回配布し、またパワーポイントのファイルを供する。

履　修　上　の　注　意

何故そうなるのかを常に考える。
意見を述べやすいようにネットワーク環境を利用した匿名で回答できるシステムを利用する。
そのため、スマートフォンなどインターネット接続できる機械を持参することが望ましい。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	体液、血液
2	循環、呼吸
3	筋肉、神経
4	感覚、消化器
5	排泄、体温
6	内分泌
7	歯牙とカルシウム、歯根膜、咬合
8	顎運動、咀嚼
9	嚥下と嘔吐、唾液
注	上記1～9は授業の流れを示したものです。

授業科目	生化学(口腔生化学を含む)			担当教員	菊地　優子
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	長崎国際大学　健康管理学部　助教				

授業目標
1. 栄養指導の基礎となる生体の構成要素とその働きを説明できる。 2. 歯と口を構成する化学成分とその働きを説明できる。 3. 歯と骨の石灰化と歯のう蝕機構を説明できる。
成　績　評　価　の　方　法
定期試験(80%)と授業後のレポート(20%)を合わせて評価する。
教科書と参考文献
歯科衛生士教本 「人体の構造と機能2　栄養と代謝」 全国歯科衛生士教育協議会　監修
履修上の注意
基本的に教科書に沿って授業を行うので、事前に該当箇所を読んでおくこと。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	**Ⅰ.生命活動の概要** 生体の構成要素
2	生体構成成分と栄養素
3	生体における化学反応
4	糖質と脂質の代謝～主要なエネルギー基質～
5	タンパク質とアミノ酸の代謝～多様な機能を持つ生体分子～
6	生体における恒常性の維持
7	**Ⅱ.歯と口の生化学** 歯と歯周組織の生化学
8	硬組織の生化学
9	唾液の生化学
10	プラークの生化学①
11	プラークの生化学②
12	プラークの生化学③
13	プラークの生化学④
14	まとめ
15	試験

授業科目	病理学			担当教員	柴田　恭明
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　組織細胞生物学分野　准教授				

授業目標

病気はその成り立ちから先天異常・代謝障害・循環障害・炎症・腫瘍と、5つの病変カテゴリーに類別されます。「総論」でそれぞれの病変カテゴリーについて学び、全身の代表的疾患について理解したのち、これを礎に「各論（口腔病理学）」では口腔内に発生する疾病について学びます。病理学を通して疾病を深く理解することにチェアーサイドにて疾病の状態を迅速かつ正確に捉え、口腔衛生の実践に役立てることを目的とします。

成　績　評　価　の　方　法

定期テスト（100　%）で評価します。

教科書と参考文献

歯科衛生士教本　病理学　全国歯科衛生士教育協議会編集

履修上の注意

事前学習として教科書を熟読しておくことが求められます。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	総論1. 先天異常、代謝障害、循環障害
2	総論2.　炎症、腫瘍
3	各論1.　歯の発育異常、機械的・化学的損傷、歯の沈着物と着色、齲蝕
4	各論2.　歯髄疾患、根尖性歯周炎
5	各論3.　辺縁性歯周炎、エプーリス、抜歯窩の治癒、粘膜疾患
6	各論4.　口腔領域の嚢胞、腫瘍
7	
8	
9	
10	

授業科目	薬理学			担当教員	小田村元昭
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	佐世保市薬剤師会理事 「佐世保中央病院薬剤部主任」後　現「のどか薬局グループ学術・業務統括取締役部長」				

授　業　目　標

膨大な薬理学的語句の意味・知識・医薬品の名称・作用等を頭から詰め込むのではなく、できる限り論理的に納得しながら学ぶ。薬理学は、薬物が生体にどのような影響を及ぼすかを科学的に研究する学門である。薬理学を通して高度化した歯科治療の現場で活躍する歯科衛生士にとって必要不可欠な薬理作用に関する基礎知識を身につける。

成　績　評　価　の　方　法

総論的な薬理学（薬物動態学）の知識
および各論的に医薬品の名称・作用機序（主作用・副作用）を習得できているか、70%を定期試験によって30％を受講する姿勢等を併せて総合的に判断する。

教科書と参考文献

教科書『薬理学』医歯薬出版会社
参考文献『今日の治療薬』南江堂　『調剤と情報』じほう

履修上の注意

薬理学的語句の意味、医薬品の名称を覚える。
医薬品の作用機序を理解する。
医薬品の体内動態を理解する。
医薬品の副作用・毒性を理解する。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	薬物の作用・薬物動態・薬物の適用方法・薬物の作用に影響を与える要因・薬物の副作用、有害作用
2	医薬品を適用する際の注意・薬物の取り扱い・薬物と法律・薬物と医薬品
3	ビタミン・ホルモン
4	**末梢神経に作用する薬物**
5	中枢神経に作用する薬物
6	呼吸・消化器・循環器・腎臓系に作用する薬剤
7	免疫と薬・炎症と薬・止血薬・痛みと薬・代謝性疾患治療薬
8	**全身・局所麻酔薬**
9	病原微生物に作用する薬物
10	消毒に使用する薬
11	悪性腫瘍治療薬
12	歯内療法に使用する薬
13	歯周疾患に使用する薬
14	口腔用薬
15	う蝕の予防に使用する薬

授業科目	微生物学			担当教員	庄子幹郎
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	長崎大学　医歯薬学総合研究科　新興感染症病態制御学系専攻　助教				

授　業　目　標

口腔疾患に関わる病原微生物の性状や発症のメカニズムなどについて熟知する。
また、耐性菌による院内感染やエイズなどに関しても十分な微生物学的知識が必要である。
さらに機械器具の消毒・滅菌については、特に深い理解が求められる。

成　績　評　価　の　方　法

学科試験において6割以上の得点を合格とする。

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本　微生物学

履　修　上　の　注　意

教科書の知識は、日々更新されているので、教科書のみの知識だけにとどまらず、幅広く知識を吸収する工夫を各自で考えることが重要である。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	微生物学の発達と歴史、微生物の一般的性状、微生物の観察方法
2	感染・免疫
3	病原微生物各論
4	化学療法・滅菌と消毒
5	口腔感染症・病巣感染
6	
7	
8	
9	
10	

授業科目	口腔衛生学			担当教員	田浦　勝彦　　介田　圭
				実務経験	無し
授業形態	講義	単位数	4単位	開講時期	1年前期
経歴・役職	（田浦）東北大学大学院歯学研究科予防歯科分野　非常勤講師 長崎歯科衛生士専門学校　非常勤講師 （介田）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学講座助教・柔鍼スポーツ専門学校公衆衛生非常勤講師（2013～2016）、 九州調理師専門学校公衆衛生非常勤講師（2015～2016）長崎大学大学院医薬学総合研究科保存修復部門助教（現在）				

授　業　目　標

個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識を理解し問題解決に必要な知識と能力を身につける

成　績　評　価　の　方　法

筆記試験。出席と授業中の態度も加味する。
（田浦）定期テスト90％、授業態度10％
（介田）基本的には定期試験100％だが、定期試験で合否のライン上の評価の場合、小テストおよび授業態度を考慮する。

教科書と参考文献

最新歯科衛生士教本　保健生態学　（医歯薬出版株式会社）
学生版　だれにでも できる小さな努力で確かな効果　（有）砂書房

履　修　上　の　注　意

健康、疾病と社会との関連、予防医学の重要性を理解すること。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要・到　達　目　標（SBOs）	担当
1	II編：歯・口腔の健康と予防　1）口腔の健康の定義を説明できる。2)歯・口腔の健康保持増進の手段を概説できる。3）歯・口腔の付着物・沈着物を説明できる。 1章　総論①②	田浦
2	3章　歯科疾患の疫学　1）う蝕の疫学的特性を説明できる。 2）歯周疾患の疫学的特性を説明できる。	田浦
3	4章　う蝕の予防　1）う蝕発生のメカニズムを説明できる。 2）う蝕発生要因を説明できる。 3）う蝕活動性試験の意義を説明できる。 4）う蝕発生要因に対する予防法を説明できる。 5）う蝕発病の第一次予防、第二次予防及び第三次予防を説明できる。	田浦
4	5章　フッ化物によるう蝕予防　1）生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。　2）フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を理解できる。　3）フッ化物応用によるう蝕予防方法を列挙できる。 4）フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。　5）ライフステージに応じたフッ化物の応用歩法を説明できる。	田浦
5	7章　その他の疾患・異常の予防　1）口腔癌の実態と予防について説明できる。 2）口臭を引き起こす原因を列挙し、予防について説明できる。 8章　ライフステージごとの口腔保健管理 ライフステージ（妊産婦期、乳幼児期、学齢期、成人期、老年期）について説明できる。	田浦
7	III編　健康に関わる地域の役割 1章　地域保健・公衆衛生　1）地域保健を担う組織の仕組みと特徴を概説できる。 2）地域保健活動の基本的な進め方を概説できる。 3）国民健康・栄養調査を説明できる。	介田
8	2章　母子保健　1）わが国の母子保健の概略を説明できる。 2）妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。 3）妊産婦期と乳幼児期の口腔保健管理を説明できる。	介田
9	3章　学校保健　1）学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。 2）学校保健の保健教育と保健管理を概説できる。 3）学校歯科健康診断の検査項目を列挙し、事後措置内容を説明できる。	介田
10	4章　成人保健　1）生活習慣病のリスクファクターを列挙できる。 2）成人病の口腔保健管理が説明できる。 3）成人保健対策を説明できる。	介田
11	5章　産業保健　1）産業保健の目的を説明できる。 2）職業性疾病を起こす要因を列挙できる。 3）口腔領域に関連のある職業性疾病とそれに対する特殊健康診断を説明できる。	介田
12	6章　老人（高齢者）保健　1）高齢者の保健福祉対策を説明できる。 2）介護保険制度の概要を説明できる。 3）地域包括ケアシステムを概説できる。	介田
13	7章　精神保健　1）精神保健の定義を説明できる。 2）健康に関わる精神保健の意義を概説できる。 3）精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。	介田
14	8章　国際保健　1）国や地域により健康水準や口腔保健の現状が異なっていることを概説できる。 2）発展途上国に対するWHOやJICAの活動を概説できる。	介田

授業科目	口腔衛生学			担当教員	田島沙織・手光淳子
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	4単位	開講時期	1学年前期・後期(10H)
役職	専任教員				

授 業 目 標

歯ブラシの種類と特徴を理解する。
ブラッシング方法の特徴を理解し実施できる。
補助的清掃器具の種類と特徴、適応を説明できる。
補助的清掃器具を操作できる。

成 績 評 価 の 方 法

定期試験60点以上とする

教科書と参考文献

教科書・・・・最新　歯科衛生士教本「歯科予防処置論・　歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会　監修
全国歯科衛生士教育協議会　監修「最新　歯科衛生士教本　保健生態学」
参考文献・・・松田裕子（編）「歯ブラシ事典　～使い方から介護用品までなんでもわかる～」 学建書院2002
松田裕子（編）「オーラルヘルスケア事典～お口の健康を守るために～」
歯科衛生士（クインテッセンス出版）
デンタルハイジーン（医歯薬出版株式会社）

履修上の注意

講義でブラッシング方法、補助清掃用具の使用方法や適応をしっかり理解し実習に取り組む。

No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要
1	・Ⅲ編3章・・・手用歯ブラシ各部の名称・電動歯ブラシ・歯磨剤・ブラッシング方法 口腔清掃方法講義・実習
2	・Ⅲ編3章・・・補助清掃器具の種類と特徴講義・実習（タフトブラシ） 補助清掃用具清掃方法実習（タフトブラシ）
3	・Ⅲ編3章・・・補助清掃用具の種類と特徴講義・実習（デンタルフロス） 補助清掃用具清掃方法実習（デンタルフロス）
4	・Ⅲ編3章・・・補助清掃用具の種類と特徴講義・実習（歯間ブラシ・スポンジブラシ・舌ブラシ）

授業科目	口腔衛生学			担当教員	山口　夏海・向井千裕
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	1単位	開講時期	1学年前期・後期（10時間）

授　業　目　標
患者指導等に生かすため、歯科衛生士として必要な基礎的な知識を習得する
成　績　評　価　の　方　法
定期試験（100％）で評価する。
教科書と参考文献
全国歯科衛生士教育協議会監修 『保健生態学　第2版』／医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会監修 『保健情報統計学』／医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』／医歯薬出版
履　修　上　の　注　意

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	Ⅰ編1章　　予防医学の概念
2	Ⅱ編1章　　歯・口腔の付着物・沈着物 （ペリクル、プラーク、歯石、外来性色素沈着物）
3	Ⅱ編2章　　歯周病 （歯周病の分類、歯肉炎と歯周炎の臨床的特徴・進行プロセス、歯周病の原因、歯周病が影響を与える
4	Ⅲ編2章　　地域歯周疾患指 CPIプローブによるプロービング実習
5	
6	
7	
8	
9	
10	

授業科目	衛生学・公衆衛生学			担当教員	出口　雄也
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	長崎国際大学・講師				

授業目標
公衆衛生とは、共同社会の組織的な努力を通じて疾病を予防するだけではなく、寿命の延命、身体的・精神的健康の増進をはかる科学及び技術であり、その内容は多岐にわたる。本講義では、歯科領域のみにとどまらず、人の健康をを守るための視野を広げ、歯科衛生士としての社会的使命を学習する。

成　績　評　価　の　方　法
定期テスト70％、確認テスト15％、授業態度15％により総合的に評価する。

教科書と参考文献
教科書:全国歯科衛生士教育協議会　最新歯科衛生士教本　保健生態学

履修上の注意
授業中に意見を求めることがあると思うが、積極的に(気楽に)答えてほしい。疑問点も積極的に質問してほし

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	健康・予防医学の概念
2	疫学
3	人口統計(1)
4	人口統計(2)
5	生活環境
6	環境問題
7	感染症
8	食中毒
9	食品の安全性対策
10	栄養政策の変遷
11	健康日本21、健康日本21(第2次)
12	地域保健、母子保健
13	学校保健、産業保健
14	成人・老人保健
15	精神保健

授業科目	歯科衛生士概論			担当教員	山田智子・山口夏海・手光淳子 田口裕子・田島沙織
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	専任教員				

授 業 目 標

全身の健康と口腔衛生が密接な関係にあること、またライフステージを通して歯科衛生士がどのように関わっていけるのかを学習する。
歯科衛生士の仕事を科学的思考に基づいて実践するための考え方やツールを学習する。

成 績 評 価 の 方 法

定期試験により、6割以上を合格とする。

教科書と参考文献

全国歯科衛生士教育協議会 「歯科衛生学総論」 医歯薬出版
金沢紀子・末高武彦（編）「健康と社会」 医歯薬出版

履 修 上 の 注 意

歯科衛生士教育のオリエンテーション科目として、歯科衛生士の社会における役割や今後の展望が理解できるように積極的に授業に臨むことを期待する。

No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要
1	健康の概念（健康をどう捉えるか？） 歯科衛生学とは？（歯科衛生と健康の関わりを考える。）
2	健康概念と健康政策の変遷。 ライフステージにおける歯科衛生活動
3	歯科衛生士誕生の歴史 歯科衛生業務の現状
4	歯科衛生士の役割と展望 チーム医療における歯科衛生活動
5	歯科衛生の考え方（科学的思考とその方法論） 歯科衛生過程
6	歯科衛生士と歯科衛生士法 歯科衛生士と医療倫理（安全管理）
7	歯科衛生士の職域と活動
8	
9	
10	

授業科目	歯科臨床概論			担当教員	内田　聡　・　岡本　浩一
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	平成3年4月　内田歯科医院勤務　平成19年医院継承　院長就任 平成10年1月（医）岡本歯科診療所開業　理事長就任				

授　業　目　標
歯科医療の概要、歯科診療の基礎、歯科衛生士の役割
成　績　評　価　の　方　法
定期試験により、6割以上の得点者を合格とする（内田） 定期試験、出席状況等の総合評価（岡本）
教科書と参考文献
全国歯科衛生士教育協議会編集　歯科臨床概論（医歯薬出版）
履　修　上　の　注　意
歯科医学や臨床の入門であるための専門用語などが多く出てくる。 授業で要点を説明するので復習にて覚えること。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	歯科医療
2	歯科患者
3	歯科疾患の概要
4	歯科診療所・歯科診療の流れ、概要
5	歯科保存治療の概要
6	歯周治療の概要
7	歯科補綴治療の概要
8	小児歯科治療の概要
9	矯正歯科治療の概要
10	口腔外科治療の概要

授業科目	歯科予防処置Ⅰ			担当教員	藤原卓・伊東李香 木下莉沙子・白倉佳奈	日高聖 山口夏海・向井千裕
				実務経験	無	有
授業形態	講義・実習	単位数	3単位	開講時期	1学年前・後期（120時間）	
経歴・役職	藤原　卓　　長崎大学医歯薬学総合研究科 小児歯科学分野 教授 日高　聖　　長崎大学大学院・小児歯科学・助教（2007年より），小児歯科専門医（2010年取得），障害者歯科学会認定医（2010年取得） 伊東李香　2020　長崎大学医歯薬学総合研究科 木下莉沙子 2021 長崎大学医歯薬総合研究科　医療専攻 白倉佳奈 2020　長崎大病院　小児歯科修練歯科医 山口　夏海・向井　千裕　専任教員					

授　業　目　標

口腔内の2大疾患と言われている、齲蝕・歯周疾患の予防処置に関する基礎的な知識と技術を習得する。
実技に関しては、できるだけ臨床に近い形式で実習を行い、将来、即戦力となるような歯科衛生士を育成する。

成　績　評　価　の　方　法

定期試験60点以上で合格とする

教科書と参考文献

全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版』／医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修 『保健生態学　第3版』／医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯周病学　第2版』／医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修 『保健情報統計学』／医歯薬出版

履　修　上　の　注　意

歯科衛生士の独占業務であり最も重要な業務となるため、基礎知識を理解し実習に臨み、
実習においては衛生士として患者への配慮をはじめ、器具・器材の操作方法を習得すること

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	【齲蝕予防処置】 ・齲蝕の原因、メカニズム、予防法 ・齲蝕活動性試験実習（カリオスタット、ミューカウント、CAT21、RDテスト）
2	・フッ化物の応用方法、集団応用の考え方 ・フッ化物塗布実習（サホライド、ミラノール、フルオールゼリー）
3	・予防填塞について ・抜去歯での小窩裂溝填塞法実習
4	【歯科予防処置】 ・予防処置の概要、概念 ・口腔の基礎知識(構造、名称、形態、機能) ・齲蝕と歯周病の基礎知識(原因、進行、症状、分類)
5	・ミラーの役割 ・ミラーテクニック実習、探針操作の実習
6	・歯周項目と実習 （プロービング、動揺度、ファーケーションプローブ、歯間離開度、アタッチメントレベル、付着歯肉幅、検査後の指導やコミュニケーションの取り方、動機づけ）
7	・各種手用スケーラーの種類と用途 ・手用スケーラーによるスケーリング実習　（ディ・プラーキング、SRP含む）
8	・シャープニングストーンの種類、特徴、用途 ・手用スケーラーのシャープニング実習
9	
10	

授業科目	歯科保健指導法Ⅰ			担当教員	田島沙織・手光淳子
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	3単位	開講時期	1学年前期・後期
役職	専任教員				

授 業 目 標

個人の歯科保健指導を行うための、基礎知識を身に付ける

成 績 評 価 の 方 法

定期試験60点以上を合格とする

教科書と参考文献

教科書・・・・　最新　歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論
全国歯科衛生士　教育協議会(編)「新歯科衛生士教本　歯科保健指導」
全国歯科衛生士教育協議会　監修「最新　歯科衛生士教本　保健生態学」

参考文献・・伊藤公一(編)「歯と口の健康百科　～家族とみんなの健康のために～」　医歯薬出版1998
松田裕子(編)「歯ブラシ事典　～使い方から介護用品までなんでもわかる～」 学建書院2002
松田裕子(編)「口腔ケア　健康ガイド　～歯からはじまる健康学～」 学建書院2002
文部省　「小学校　歯の保健指導の手引き(改訂版)」 東山書房1994
(有)ｱｲﾃﾞﾝﾀﾙｻｰﾋﾞｽ(編)「歯科アシスタント・マイブック」 (有)ｱｲﾃﾞﾝﾀﾙｻｰﾋﾞｽ 2005
かとうひさこのブラッシングガイド(医歯薬出版株式会社)
ライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック　医歯薬出版

履修上の注意

ノート・資料等を整理し、まとめておくこと。
実習に関しては、各項目をしっかり整理し臨床での個別指導に活かせるようにすること。

No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要
1	Ⅰ編1章・・・歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要
2	Ⅱ編1章・・・口腔の基礎知識 歯牙の名称
3	Ⅱ編3章・・・食生活指導のための基礎知識 4章・・・保健行動支援のための基礎知識
4	Ⅲ編1章・・・歯科衛生過程の進め方 2章・・・歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理
5	Ⅲ編4章・・・歯科衛生士介入としての歯科保健指導 口腔衛生・機能管理に関わる指導・生活習慣の指導・ストレスマネジメント
6	Ⅳ編1章・・・ライフステージに対応した歯科衛生介入 2章・・・配慮を要する者への歯科衛生介入
7	・校外ブラッシング指導実習(幼稚園) 1，2年合同
8	Ⅲ編4章(保健指導)・・・実習、実技試験(ブラッシング・デンタルフロス) Ⅱ編2章(保健生態学)　タフトブラシ実習
9	Ⅲ編4章(保健指導)・・・義歯の取り扱い、清掃方法講義・実 Ⅱ編2章(保健生態学)　歯磨剤について
10	Ⅱ、Ⅲ編2章(保健指導)・・・付着物、付着物について Ⅱ編1，2章(保健生態学)　　電動、音波、超音波ブラシについて
11	・染色剤、チャート、付着物、沈着物記入実習
12	・予防処置・保健指導　Ⅰ・Ⅱ年合同実習
13	・紙芝居・媒体作成 ・グループワーク、発表(リスク部位について)
14	・特殊な歯ブラシについて(矯正用、インプラント用歯ブラシ) ・その他の清掃用具について(口腔洗浄器、ﾄｩｰｽﾋﾟｯｸ、ラバーチップ)

授業科目	栄養学Ⅰ			担当教員	吉村　亮二
				実務経験	有　・　無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	第1学年前期
経歴・役職	長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科・講師				

授　業　目　標
栄養の基礎知識をはじめ、各栄養素の代謝や働き・日本人摂取基準・食物とう蝕との関係など、食生活と歯科衛生の関連性や口内環境を整えることの重要性を学び、栄養学としての知識の習得を目指す。
成　績　評　価　の　方　法
定期試験を100点満点として評価し、60点以上を合格とする。
教科書と参考文献
「人体の構造と機能2　栄養と代謝」　医歯薬出版株式会社
履　修　上　の　注　意
授業に集中し、私語や授業に関係のない行為は厳禁である。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	栄養の基礎知識　食生活と栄養
2	栄養の基礎知識　栄養素の消化
3	栄養の基礎知識　栄養素の吸収
4	食事摂取基準
5	栄養素の働き　糖質の栄養的意味
6	タンパク質の栄養的意味
7	脂質の栄養的意味
8	ビタミンの栄養的意味
9	ミネラルの栄養的意味
10	水・食物繊維の栄養的意味
11	食生活と健康　国民の健康と栄養の現状・望ましい食生活
12	ライフステージ別の栄養と調理
13	食べ物と健康
14	まとめ
15	まとめ

授業科目	歯科診療補助法　Ⅰ			担当教員	田口裕子・郡　敦美
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	3単位	開講時期	Ⅰ学年前期・後期（120時間）
経歴・役職	専任教員				

授　業　目　標

現場における歯科診療補助の内容を理解し、診療の流れに沿って、歯科衛生士に必要不可欠な知識と技術を、マネキン実習や相互実習により修得する。さらに診療環境の整備、感染予防対策、器材の管理、事務処理などの歯科診療における基本的な業務を実践的に学習する。

成　績　評　価　の　方　法

定期試験により、6割以上を合格とする。

教　科　者　と　参　考　文　献

最新歯科衛生士教本　「歯科材料」医歯薬出版
最新歯科衛生士教本　「歯科機器」医歯薬出版
最新歯科衛生士教本　「歯科診療補助論」第2版医歯薬出版

履　修　上　の　注　意

主に実技実習がメインの授業展開となるため、実習の回数を追うごとに実技のレベルが上がるよう毎回の授業を真剣に望む。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	歯科診療補助の概念
2	歯科診療の補助業務
3	歯科診療室の環境設備とユニットの取り扱い
4	医療安全と感染予防 スタンダードプレコーション 感染予防対策・手指消毒
5	薬品の種類と用途 薬品の取り扱い
6	衛生用品の用途と種類 綿栓作成
7	滅菌と消毒
8	共同動作の概念 バキューム、ライティング、ポジショニング（マネキン実習及び相互実習）
9	ラバーダム実習（マネキン実習および相互実習）
10	印象採得の基礎知識 アルジネート印象材による概形印象採得（マネキン実習及び相互実習）
11	歯肉圧排について（マネキン実習）
12	寒天印象材の性質 寒天印象材とアルジネート印象材の連合印象採得（マネキン実習）
13	In・FMC印象採得（マネキン実習）
14	石膏の種類と性質 スタディモデル作成
15	合着材・接着材の種類と用途 セメント練和実習
16	仮封材の種類と性質 仮封材の取り扱い
17	ゴム質印象材について ワックスの種類と取り扱い
18	モデリングコンパウンドの取り扱い 各種咬合採得方法について

授業科目	歯科材料学			担当教員	松家　茂樹
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	1学年後期
経歴・役職	九州大学歯学部助手（昭51.4～昭62.8）、同助教授（昭62.8～平12.3）、九州大学大学院歯学研究院准教授（平12.4～平18.8）、福岡歯科大学教授（平18.9～平29.3）				

授　業　目　標

各種歯科材料の基本的性質を理解し、歯科材料の用途ならびに取り扱い上必要な知識の習得を目標とする。

成　績　評　価　の　方　法

定期テスト80％、小テスト20％

教科書と参考文献

歯科衛生士教本「歯科材料」　全国歯科衛生士教育協議会監修　医歯薬出版
講義時に適宜資料配布

履修上の注意

歯科衛生士が取り扱う歯科材料の種類と用途は多岐にわたり、各材料の適切な取り扱い方法も様々です。教科書の内容をただ覚えるだけでなく、実際に歯科材料を取り扱う時「なぜそのように取り扱うのか」「適切に取り扱うにはどうすれば良いのか」を考えることが出来る様、本講義で学ぶ歯科材料の特性をしっかりと理解してください。復習を兼ねて時々小テストを行う予定です。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	歯科材料の基礎知識　教科書Ⅰ編2章(p4～p23)
2	印象材　教科書Ⅱ編2章(p43～p58)
3	模型用材料　教科書Ⅱ編3章(p59～p71)
4	合着材・接着材　教科書Ⅱ編4章(p72～p89)
5	成形修復材　教科書Ⅱ編5章(p90～p107)
6	仮封材　教科書Ⅱ編6章(p108～p119)
7	暫間修復材・仮着用セメント　教科書Ⅱ編7章(p120～p127)
8	ワックス　教科書Ⅱ編8章(p128～p134)
9	金属材料　教科書Ⅱ編9章(p135～p141)
10	セラミックス材料　教科書Ⅱ編10章(p142～p149)
11	その他の歯科材料　教科書Ⅱ編11章(p150～p170)
12	
13	
14	
15	

授業科目	茶道文化　I			担当教員	安部直樹・嶋内麻佐子
				実務経験	有
授業形態	実習	単位数	1単位	開講時期	1学年前期・後期
経歴・役職	安部直樹　学校法人九州文化学園 理事長 嶋内麻佐子　長崎国際大学　教授				

授　業　目　標

本学の特色ある教養教育「茶道文化」の入門編として、日本文化における茶道の意義とその総合芸術性に関する基礎的理解を行い、茶道実技の薄茶点前を修得する。茶道に関する基礎的な知識、茶室、茶道具の名称や使用法、客や亭主の心得を学び、短期大学主催の茶道大会に客人として参加する。茶道で身に付けたマナーや、心遣いを家庭・職場・社会生活に役立てる。

成　績　評　価　の　方　法

薄茶点前（茶を出すまで）の実技試験によって行う。評価の観点は、①正確な薄茶点前ができたか。②よどみなく点前を最後まで続けることができたか。③道具を丁寧に扱うことができたか。などを総合的に評価する

教科書と参考文献

嶋内麻佐子著 「茶道文化　基礎編」本学独自テキスト

履修上の注意

茶道文化は、ただ単に茶室での点前技術にとどまらない。この茶道の心や点前を日々の生活に活かしてこそ、茶道文化の目的の遂行となる。ホスピタリティの精神やもてなしの心を茶道文化より習得し、それを毎日の生活の中で活かす努力をすること。茶道を通して人の心がわかるようになること。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要
1	茶道文化の概要 礼法について（1）
2	礼法について（2） 茶道具の意味
3	袱紗挟みの説明 点前披露
4	道具の収納場所の確認 薄茶割稽古（1）　袱紗の取り扱い
5	薄茶割稽古（2） 茶杓と棗清め・仕込み茶碗
6	薄茶割稽古（3） 置き合わせ・こぼしの持ち方・水差しの持ち方・柄杓引きまで
7	薄茶割稽古（4） 茶筅通しをするための湯を入れる動作
8	薄茶割稽古（5） 茶筅通し、湯の捨て方、茶碗の拭き方、茶巾扱いまで
9	薄茶割稽古（抹茶の入れ方、水差しの蓋の扱い、茶の点て方、茶碗の出し方まで）
10	薄茶点前と客点前
11	薄茶点前後半
12	薄茶点前実技試験
13	実技試験の反省、茶道大会の意義、客点前
14	茶道大会参加
15	初釜
16	松芳忌

授業科目	接遇作法　Ⅰ			担当教員	梶谷よし子
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	1学年前期
経歴・役職	企業研修部長				

授　業　目　標

社会人として必要な日常マナー、ﾋﾞｼﾞﾈｽマナーを学ぶことで相手を尊重し、敬意を持って人と接する為の「気配り」「気働き」「心配り」の自覚を促す。
歯科衛生士としての技術や知識に加え、一人の女性として、社会人として心地よい人間関係を築いていく上での必要なマナーを身につけることを目的とする。

成　績　評　価　の　方　法

期末総合（筆記・実技）にて評価
筆記70％　実技20％　授業態度10％

教科書と参考文献

『センスアップ　マナーテキスト』 プリント配布

履　修　上　の　注　意

授業にふさわしく身だしなみを整える
・髪型　・制服　・上履き

No.	授業題目・授業概要
1	オリエンテーション（授業のすすめ方の説明）.自己紹介のしかた.挨拶のしかた
2	笑顔の演出・美しい立ち居振る舞い
3	来客応対　案内の仕方（廊下・階段）・ドアの開閉・席次（上座・下座）
4	和室のマナー　玄関への入り方・和室の席次（上座・下座）・座布団のマナー
5	招待状の返事の書き方　招待者のマナー（祝儀袋の書き方・慶事の服装）
6	葬儀のマナー（不祝儀袋の書き方・弔事の服装）
7	言葉遣い（敬語）
8	総合チェック（テスト）
9	
10	

授業科目	情報処理論Ⅰ			担当教員	宮崎省三
				実務経験	無
授業形態	演習	単位数	1単位	開講時期	1学年前期（20時間）
経歴・役職	法人事務局人事課　課長				

授　業　目　標

社会のニーズに対応すべく、コンピュータの活用方法のうち、Wordソフトの基礎から応用を学習する。前半は実践的に文書を作成しながら技能を修得していく。後半は各技能やアイテムを掘り下げて学んでいく。歯科衛生士として歯科医院から患者への案内文書が作成できるようになる。

成　績　評　価　の　方　法

・試験課題は、授業期間中に行い、出題されたデータを基にその特徴を把握し、指示に対する適切な処理方法の選択やその技術等の能力を総合的に判断し、評価する。また後日、授業内で試験のフィードバックを行い、試験解答を基に誤った処理に対して適切な処理の修正の実践状況も併せて評価する(80%)。授業態度・授業への参加度は、授業課題への実践態度を主観的に評価する(20%)。

教科書と参考文献

参考書:　各回毎にプリントを配布する。

履　修　上　の　注　意

各回毎にステップアップしていき、その操作方法を習得していくといった流れで展開するため
出席し、その操作方法をしっかりと理解すること。1週間の間隔を埋めるべく、適時復習を実施。
わからないことはその場で必ず解決していくこと。

No.	授　業　題　目　・　授　業　概　要	
1	コンピュータ基本操作	基本用語とWindowsの起動・終了、コンピュータの基本原理とメンテナンス単位について
2	電子メールの利用 文字の入力	電子メールの基礎知識、基本マナー、情報モラル、知的財産権 文字入力講座
3	文書作成 (1)	Wordの起動と文字入力、フォント、配置の活用、スタイルと書式の作成・設定 インデントの活用、行間の設定、表の挿入
4	文書作成 (2)	罫線の設定、表入力、網掛けの設定、図の挿入、図の位置、線とテキストボックスの挿入
5	文書作成 (3)	表での計算の実行・変更・更新、均等貼り付けの活用、箇条書きの利用 段落番号の設定、データの並び替え、ワードアートの挿入
6	文書作成 (4)	透かしの作成、背景の色の作成、塗りつぶしの変更・効果の利用、図の利用 差し込み文書の活用
7	Word応用 (1)	Wordの理解/セクション・ページ番号
8	Word応用 (2)	Wordの理解/スタイル、インデント、段落、段組、ドロップキャップ
9	総まとめ	試験課題（案内文書作成）
10	振り返り	試験解説、アンケート